

情報感度を研ぎ澄ます! —— ビジネス情報誌 EL NEOS[ザ・ニュース]

# エルネオス

最終号  
2020 9  
September

26年間のご愛読、ありがとうございました。

コロナウイルス感染体験記・伊藤博敏／デジタル生活化で日中格差／ハザードマップと保険  
出口治明APU学長の提言／MUFG富裕層取引／脱石油に出遅れた日本勢／テレ朝労組



# ベジチャード 発掘

新潟県新潟市西区／ささえあい生協グループ

# 新潟発の協同組合を発足し 自由・自治・平等の社会生活の実現へ

高齢者・障害者自身の意欲と力を「最高の元手」に  
地域でささえあい、励まし合う仕組みを育て、  
生活向上のために自主的に活動する協同組合がある。  
福祉・生きがい・仕事おこしを目指した事業内容は  
まさにベンチャースピリットそのものだ――

（高見優理事長）は、今日の世界に欠けている「ささえあいの精神」を地域における生活や組織の使命とする協同組合「ささえあいコ・ミニユーニティ生活協同組合新潟」（以下、「ささえあい生協」）が中心になつていて。ドイツ農村信用組合をつくり、協同組合の父と呼ばれるF・M・ライファイゼンの言葉「一人は万人のために、万人は一人のために」を地でいく「ささえあいの地域づくり」を進めてきた。

同グループは、新潟市を中心に県下で「自由・自治・平等」という当たり前の社会・生活を実現するための社会福祉事業を開拓。来

さざなえあいは、家族、地域、国や世界の在り方の基本だが、当たり前過ぎて普段は忘れられていることが多い。だが、自然災害など大きな不幸や悲劇に襲われた時に突然、世界中から支援物資や寄付などの善意が寄せられて、その重要性を思い知らされる。

ドイツの社会学者、ヴォルフガング・シュトーレーク著『時間稼ぎの資本主義』ではないが、近年のグローバル化を牽引してきた米国主導の株式至上主義＝金融資本主義の矛盾と限界つまりは破綻を、今回の新型コロナウイルス騒動が見事に暴いている。コロナ後の行方は不透明だが、共存のための「ささえあい（支え合い）」こそが重要になつてゐるといえる。

支援事業所きまま舎など、幅広い。

その他、グループとして、特別養護老人ホーム（特養）を運営する社会福祉法人「けやき福祉社会」、地域をつなぐ活動を続ける「にいがた協同ネット」、生活困窮者自立支援、身元保証・生活支援サービス、「フードバンクにいがた」、子ども食堂、市民エネルギー発電などの事業や運動、人材探しならびに資金提供など、地域の問題に積極的に取り組んでいる。そんな協同組合が、なぜベンチャーなのか？

一つには、さまざまな事業を展開するそぞえあい生協グループが掲げる事業内容は「福祉・生きがい・仕事おこし」である。仕事おこしは高齢者によるベンチャーそのものだ。

組合のイメージとは異なり、ベンチャースピリットに満ちていて、常にイノベーションを続けてきているからである。その在り方は、現在の協同組合に関する典型的な成功モデルとして

年一月に創立十五周年を迎える。

2020-9 FL NEOS | 60

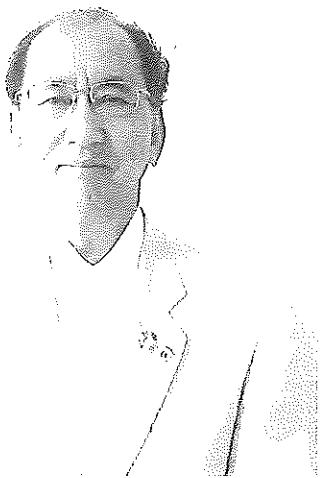
関係各方面から注目されている。

## 無形文化遺産

ささえあい生協は、協同組合の全国組織である日本高齢者生活協同組合連合会（以下・高齢協／高見優会長理事）の傘下にある。

高齢者が安心して暮らせる社会は、あらゆる世代（老若男女）にやさしい社会である。それを実現するため、高齢協は皆で出資し、社会に役立つ事業・活動を行う非営利組織『協同組合』として、日本労働者協同組合連合会（ワーカーズコープ）の呼びかけにより全国各地に誕生した。高齢者や障害者福祉に関する事業と、多様な地域課題（困りごと）の解決に取り組み、「福祉の生協」とも呼ばれる。

近年の格差や分断が広がる世界に、「自然と人、人と人が地域でつながり、老いも若きもすべての世代が、多様なやり方でささえあう生涯現役社会を目指しましよう」とメッセージー



高見優理事長

ジ。その高齢協に「コミュニティ協同組合」という形で参加しているのが、ささえあい生協なのである。

日本ではあまり知られていないことだが、一六年十一月にユネスコが「協同組合」を、次世代に引き継ぐべき人類の財産として無形文化遺産に登録した。登録にあたってユネスコは、共助の精神で活動する協同組合を「共通の利益と価値を通じてコミュニティづくりを行うことができる組織であり、雇用の創出や高齢者支援から都市の活性化や再生エネルギー・プロジェクトまで、さまざまな社会的な問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している」と評価している。

この事実が日本ではほとんど注目されなかつたのは、協同組合が組織としてさまざまな問題を抱えているからだろう。すっかり商社や銀行と化した農協、金融不安・再編が叫ばれる中で経営悪化が危惧される信用金庫・信用組合、当初の理想を掲げても実質大手スーパーと変わらない生協など、長い歴史を持ち、大きな組織になりすぎた協同組合は、今やお役所的な組織といったイメージが強い。

「伝統、歴史のある従来型の農協や漁協も、時流に流され過ぎたり、権力に優遇されたりして、組織の在り方が崩れかけている。これは世界中、どこも同じです。しかし協同組合の理念と原則を守っているところは、少しずつでも広がっている。徹底した民主主義や自

治・現場主義、いろんな言い方をされていますが、ダメなところはそれがない。ましてやベンチャーフィード精神とも無縁だから、イノベーションも起こりようがない」と、高見優理事長は自戒を込めて、厳しい口調で語る。

ささえあい生協が注目されるのは、人類の遺産にふさわしい協同組合の理念と原則を守り、成長を続けてきているからである。

## 新潟水俣病

ささえあい生協の特徴は、事業所設立の方と、分権型の独立採算的経営方法など、その事業経営・組織運営が、本来の協同組合が理想とする「主体性と自律性を重んじ、自治と民主の現場主義を徹底しよう」との考え方を、可能な限り貫いてきたことである。

ささえあい生協グループ理事長の他、日本高齢者生活協同組合連合会会長理事など、多くの肩書を持つ高見理事長の原点は、学生時代に関わった「新潟水俣病事件」にある。それは形を変えて今につながっている。

高見理事長は一九四七年九月、京都に生まれた。生家は京都大学に近く、ノーベル賞学者の湯川秀樹・朝永振一郎博士に憧れて、一浪して京大理学部に入学した。研究者を目指したが時代は学生運動の最盛期。多くの若者が革命に走り、周りには北朝鮮やアラブに行く過激な連中がいた。京大でも科学者の社会的責任が追及され、大学解体が叫ばれていた。



「いよいよ行き詰まり、髪結いの亭主ではな  
いが女房に面倒を見てもらっていた。その頃  
のことを知っている人からは『よく離婚され  
なかつたね』と言われる状態でした」と、当  
時の苦境を語る。

「くらしの相談にいがた」をほとんど持ち出  
しで続け、二〇〇〇年を迎えると「さすがに  
何とかしなければ」という状況で出合ったの  
が、日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）  
の協同労働理論だった。そして〇六年一月、  
ささえあい生協が発足する。

会福祉士の資格を取つた。ある先輩から「社  
会福祉士の資格ぐらいは取つておいたほうが  
いい」と助言されたからだ。専門学校の通信  
教育を一年半受講した後に、国家試験を受験。  
相当の難関だったが、運良く一発合格した。

「社会福祉士という資格は、社会革命家の制  
度なんです。困難を抱える人たちに、どうア  
プローチをするか。彼らの状況を変えるため  
に、どういう政治的アクションが必要か——。  
結局のところ、いわゆる社会革命ということ  
では、学生の時に考えていたことを今もやつ  
ているように思います」と、高見理事長は総  
括する。

設立以来、毎年挑戦してきた新事業の立ち  
上げの試行錯誤は、「事業所立ち上げマニュアル」  
に生かされた。特に苦労する人員確保と  
資金調達の課題が、十点法でチェックできる  
ようになっている。

介護保険法が二〇〇〇年に施行され、〇六

年から全国の市町村で新たに地域密着型サ  
ークルがスタートする時期であった。  
介護の現場で、それまで別々だったデイサ  
ービス、ショートステイ、訪問介護などが一  
カ所でできる小規模多機能型サービスが可能  
になつた。それに着目して実現したのが、新  
潟市の第一号となつた小規模多機能型居宅介  
護事業所「ささえ愛あわやま」である。

地域の高齢者によるベンチャーヒューマンのよ  
うなものなのか。  
例えば、一四年四月に設立された小規模多  
機能型居宅介護事業所「ささえ愛いしやま」  
は、住宅街の真ん中になり、地域自治会の協  
力を得て住民から出資金を募り組員にな  
つてもらい、共同で地域拠点づくりに取り組  
む。施設の一部を「地域の茶の間・ささえ愛  
いしやま」としても活用しているのだ。当初、  
介護事業所に「地域の茶の間」を開設するこ  
とに對して行政担当者から「介護事業外の事  
業は認められない。中止せよ」と指示があつ  
たが、高見理事長が担当窓口に出向いて、時  
代錯誤な対応を撤回させる一幕もあつたとい  
う。

一方で、グループとしてのベンチャーでは、  
社会福祉法人「けやき福祉会」による特別養  
護老人ホーム（特養）「あい・いからしの郷」  
での地域拠点づくりであろう。

特養は社会福祉法人格がないとできない。  
そのため、新たに社会福祉法人「けやき福祉  
会」の設立から始めた。

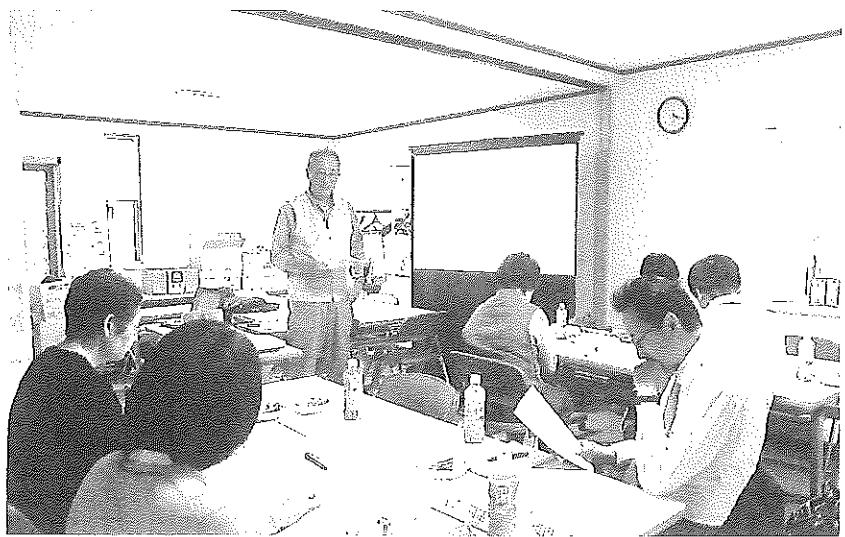
「地域の茶の間」では利用者、地域住民、職員が集まってイベントを催す。



## 社会福祉士の資格

# ベンチマーク先端

新任職員研修会の様子。人材の育成に力を入れている。



法人設立に必要な基金は一億円。その調達をいかにクリアするか。まず、ささえあい生協が五千万円の寄付を決断。残りの五千万円は、後にけやき福祉会理事長に就く会田きよみ氏らが地域の約六千軒を回って四百軒から集めた。この一大事業により、新潟市に十数年ぶりに新たな社会福祉法人が誕生したのだ。

それは同グループが社会福祉法人を設立できるだけの力を持つたと同時に、広く社会的な存在として認知されることを示す典型的な事例となつた。

年ぶりに新たな社会福祉法人が誕生したのだ。

それは同グループが社会福祉法人を設立できるだけの力を持つたと同時に、広く社会的な存在として認知されることを示す典型的な事例となつた。

法人設立に必要な基金は一億円。その調達

## 労働者協同組合法

働き方改革が広がり、労働者の権利が叫ばれるなど、労働環境にも変化が見られる。現在の株式会社は、日本では約百五十年の歴史

しかないが、大量生産・大量消費・大量廃棄の経済成長を遂げた後、その限界を突破するため、さらなるグローバリゼーションによる規制緩和・自由化へと流れ、直接事業にタッチしない株主の意向に応えるようになってしまった。本来、株主は会社のサポーターであるべきだが、その株主が自らの利益を優先するようになつた結果、かつての近江商人の心得とされた買い手・売り手・世間の「三方よし」の会社はほとんど存在しない。

そうした現実を変えようと、地域のため、率先して協同労働の考え方方に基づく協同組合づくりを行つてきたのが、ささえあい生協グループの歴史である。

「いつでも、だれでも、どこでも協同組合を立ち上げることができ、働く者が組合員となり主権性を持つて、地域の主体者となることができる」というのが、普遍的な協同組合制度である。

活動の歴史の古いヨーロッパでは、すでに「協同組合基本法」がある。

わが国でも日本労働者協同組合連合会などが長年、法制化に取り組んできた「労働者協同組合法」が、今秋にも制定される。

同法案の特徴は、(1)組合員による出資(=出資)、(2)組合員の意見を反映した事業の運営(=意見反映)、(3)組合員自らその事業に従事する(=従事)という、三つの原則を基本原理とするものだ。

労働者協同組合法ができることによつて、これまで以上にさまざまな場所で、いろんな人たちが活動を始め、事業を起こす。株式会社とは異なる論理で、みんなで話し合い、一人ひとりの意見を大切にし、地域を守つていこうという流れが始まる可能性がある。

高見理事長が結成に参加した「市民新党にいがた」が画期的だったのは、普通の政党とは異なり、党の決定に反対しても除名されず、決定に従わなくても良かった。つまり反対の自由が認められていたことにある。

そうした一人ひとりを基本にした対応は「民主的な運営とは何か?」を考える中から生まれてきたというが、それが、今日のささえあい生協の考え方と共通する。

「協同組合が株式会社と決定的に違うのは、組合員は全員一人一票ということ。株式会社は一株一票ですから、お金の量ですべて決まってしまう。協同組合は非営利で、民主的な自治組織ですから、私のようなトップマネージャーでも、一票しか持たない。これはかなり重要な原理なんです」と高見理事長は強調する。

さらに、決定に従わないという権利も認められた。それは少数派の意見が正しいことがある。

ためだ。ある程度、時間が経過した段階で、もう一度総括するためにも除名にしない。

その代わりに、決定事項・方針に対しても「妨害してはいけない」という条件がつく。重要なことは組織として、できるだけ間違いをしない体制をとることと、間違いとわかった場合は間違いを認め、修正できる柔軟性があるということである。

## ささえあい大学・銀行

全体としては順調なささえあい生協グループだが、当然、一部事業所で経営が苦戦していること、ワーカー不足が常態化しているほか、同グループにおける協同労働の理念の浸透や事業の総合化・複合化、地域共生事業への展開が不十分であることなどの課題はある。だが、株式会社が多くの矛盾を抱える一方、世の中は社会的連帯経済の必要性を実感している。その代表的存在でもある協同組合は、SDGsが時代の趨勢となり、企業社会でも当たり前の指針となるなど、世の中の追い風を受けている。

とはいっても多くの協同組合はどうも苦戦している。ささえあい生協グループも、初代の高見理事長らが苦労して築き上げてきた理念と目的をいかに共有し、強い組織であり続けられるか。そこで急務として進められているのが、組織を支える人材づくりである。

「常に人間が成長できる組織」を目指す同グ

ループの将来像について高見理事長は、「私たち一代ではできませんが」と前置きして、個人的な思いとして「将来的には新潟に自分のたちの大学をつくりたい。金融機関と教育機関を持つて事業を開拓できれば、地域に対する影響力も發揮できる。いろんな地域と連携を深めることによって、日本全体を変えていく」と、大きな目標を思い描く。

価値ある事業と安定した経営を両立させるためにも、今以上にささえあい生協グループの理念を理解し、活動を担う多くの後継リーダーを育てる必要があるのだ。

すでに世界には、手本とするべき実例がいくつもある。協同組合が銀行や信用金庫、大学を持ち、いくつもの事業体を束ねている。それは地域では経済も政治も自分たち市民の手で回していくべきであり、そうすることが、本当の自治だと考えているからである。

新潟でも大学づくりの「前段階」として、すでに昨年十月から、新潟大学で協同組合に関する寄付講座「働くことと地域づくり～協同組合理論」を始めている。第二期である今年も下半期から講座がスタートする。来年は新潟敬和学園大学でも始まるなど、大学での協同組合に関する講座は、全国の大学に広がっている。

企業社会でも、いわゆるトヨタ大学、ソニー大学、マクドナルド大学などと呼ばれる、企業がさまざまな形の教育・研修機関を持つ

ている。銀行に関しても、例えばトヨタ自動車は世界企業であるゆえに、海外貿易・為替取引などの必要性から、実質トヨタ銀行などといわれる。

高見理事長がやろうとしている、そうした大学、銀行づくりは協同組合としての試みだが、それは多くの企業＝株式会社が、株主のためにある前に、本来の使命である会社、つまりは社会が存在しなければ、いくら利潤を追求したところで意味がないことの裏返しだ。

学生運動＝社会革命の道を歩み続けた高見理事長らが率いるささえあい生協は、株式会社ではないが、実は理想の株式会社の在り方をメソセージするものでもある。

それは資本が労働を使う関係から、働く者が主体となり、いわば労働が資本を使う。その場合の資本とは自分たちが出資した資金のほか、事業のための施設や労働者などを含む。そうした新しい経営の在り方こそが、ささえあい生協を他の協同組合の一歩先を行くベンチャーライジングでいるのではないだろうか。

根底には社会全体に広がる格差や矛盾に対して、学生運動当時の「弱いものいじめはいけない」という強い思いがある。そのチャレンジこそが、協同組合に似つかわしくないベンチャー精神そのものである。混迷の続くコロナ後の時代に、ささえあい生協グループの担う使命は大きい。

(終)

※「新世相斬り・橋本テツヤの一針見血」は前ページに掲載しています

編集後記

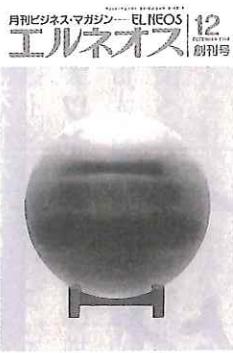
# ビジネス情報月刊誌「エルネオス」は

この9月号が最終号です。

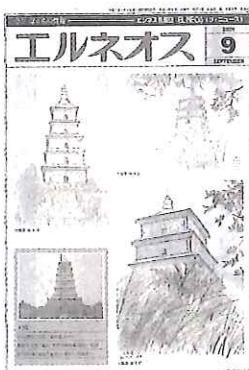
310号分の感謝を込めて  
ご愛読ありがとうございました。

株式会社エルネオス出版社  
スタッフ一同

※「エルネオス」の表紙には3パターンの歴史がありました――



人間国宝徳田八十吉作品シリーズ創刊号～2001年8月号



平山郁夫画伯素描シリーズ  
2001年9月号～2003年8月号



内山弘隆イラストシリーズ  
2003年9月号～最終号

## エルネオス

エルネオス2020年9月号 2020年9月1日発行  
年間購読料10,428円(12冊税・送料込み)  
1冊790円(税別)  
編集・発行人／市村直幸  
■発行／株式会社エルネオス出版社  
〒105-0003  
東京都港区西新橋1-22-7 丸万7号館  
T E L 03-3507-0306(編集)  
03-3507-0323(販売・広告)  
F A X 03-3507-0393(共通)  
●乱丁、落丁はお取り替えいたします。

◆今も反省の中にある。これが最終号だといふのに、いつものように要領悪く、時間に追われつつ、肉体労働よろしく編集作業に没頭した。そんな日々の直前に企画取材資料の関連で読んだ本に、出会いの妙を感じた。高田郁さんの時代小説『あい－永遠に在り』。北海道陸別町の開拓につながる医師・閑寛斎の妻の物語。感染症対応も登場する。家人を経て縁者をたどれば編集子も閑寛斎が身近に思える妙。物語を支える舞と山桃。房総と徳島。縁も時も不思議だ。◆情報提供や記事を書いてくれた記者。連載執筆陣。広告を出してくださった企業。人の縁、時の流れに支えられて「エルネオス」はここまでたどり着いた。感慨深い。金田一秀穂さんの連載(78頁)に書かれた編集子のコメント。その後には「エルネオスから議論が始まる、そんな場になるのは大歓迎ですから」と続けたと記憶する。◆オピニオン誌ではない。事象に目を向け、考える素材として責任ある記事を読者に提供したいと考え続けた。心ならずも迷惑をかけてしまった先のこととも思い浮かぶ。お気に召さない記事に公権力を利用する人物や企業にも出遭つた。今、香港に象徴される自由な物言いの大切さを切实に考えながら筆を置く。